書評・Book Review

魚類学雑誌
45(2): 120~121

Catalog of Fishes—W. N. Eschmeyer et al. 1998. Special Publication No. 1, Center for Biodiversity Research and Information, California Academy of Sciences, Sanfrancisco. 2905 pp. (3 volumes) with CD-ROM. ISBN 0-940228-47-5. US$ 170 (including surface shipping).

Eschmeyerと彼のチームが構築した壮大なデータベースが出版された．魚類の種名と属名のデータベースおよび関連する資料から構成されている本書は3巻からなる．総ページ数は2905ページを数え，引用文献欄だけでも345ページある．データベースの検索を容易にするためCD-ROMもついている．また，このデータベースはインターネットに公開されている(http://www.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/)．本書を開くとEschmeyerが魚類の学名カタログ作成に傾注したエネルギーに圧倒される．本書が近代魚類学の記念碑的業績となることは間違いない．魚類を研究対象にしているすべての人に購入をお勧めする．

1990年にEschmeyerはCatalog of the Genera of Recent Fishesという壮大な出版物を世に出した．この出版物は魚類の属名に関する豊富な情報と属名に関連する国際動物命名規約の資料によって構成されていた．属名のデータベース作成だけでも気の遠くなるような仕事である．それからわずか8年後に種のデータベースまで完成させてしまうとは脱帽である．

本書は大きく分けて六つの部分から構成されている．Part I: Species of Fishes (W. N. Eschmeyer, C. J. Ferraris, Jr., M. D. Hoang and D. J. Long), Part II: Genera of Fishes（W. N. Eschmeyer; R. M. Baileyの援助あり），Part III: Species in a Classification (W. N. Eschmeyer), Part IV: Genera in Classification (W. N. Eschmeyer), Part V: Literature Cited (W. N. Eschmeyer, M. D. Hong, C. J. Ferraris, Jr. and D. J. Long), そしてAppendixが続いている．AppendixはAとBの二つからなり，Aは具体例を豊富に含んだ国際動物命名規約の解説 (W. N. Eschmeyer)，Bは国際動物命名規約の委員会から出された魚類に関するopinionsの一覧，Official List, Official Indexなどから構成されている (W. N. Eschmeyer, B. Weibrecht and W. F. Smith-Vaniz)．また，魚類標本を保管している博物館や研究機関の略号一覧も緒言に付されている．

種名のデータベースは，種の学名，原記載で使用された属名（亜種の場合には属名と種名），著者名，出版日付，文献（原記載の最初のページ，図版や図の番号），模式標本の種類（holotype, syntypesなど），判明している場合には模式標本の所在地と登録番号，模式産地，備考，homonymやreplacement nameなどの記述，そして最後に種名のstatusに関する記述によって構成されている．Eschmeyerによるとデータベースに収録されている種グループの名称は53,500件，属グループは10,300件に達するという．これだけのデータについて上記のような詳しい情報を収録している．しかも，この情報は単に文献に頼ったものではない．Eschmeyer（そして，一部Ferraris）は39もの博物館と研究機関を訪ね，模式標本カタログ，標本台帳そして模式標本を調べたのである．アメリカ大陸やヨーロッパはもちろんのこと，オーストラリア，アフリカそして日本も訪問して精力的に模式標本のチェックを行った．そして，博物館のキュレーターが見逃していた情報を模式標本調査によって見いだしたことも多かったのである．このように，彼のデータベースは実物に裏打ちされている点でも比類のないものである．

属名のデータベースについては1990年の出版物と本質的な違いはない．Part IIIとPart IVの種と属の分類については，1994年に出版されたJ. S. NelsonのFishes of the World（第3版）に準拠している．Appendix Aの国際動物命名規約の解説は分類に関心のある人にとって大いに役立つであろう．1990年の属名に関するカタログにも解説はついていたが，当然のことながら属グループの名称に関する事柄が中心であった．今回は種グループについても扱われている．また，もうすぐ出版されることになっている国際動物命名規約第4版のドラフト段階の情報も含まれている．このAppendix Aは魚類分類学に従事する者には必読の文献である．

附属のCD-ROMはマイクロソフトのデータベースソフトであるアクセス上で動く．インターフェースを見ると，フィリピンに本部があるICLARMが作成したFishBaseとよく似ている．FishBaseのリーダーであるRainer Froeseが本書の作成に協力したためであろう．検索機能に満足できるかどうかは求める情報によって異なるであろうが，かなり便利にできている．アクセスがWindowsマシンで動くソフトであるからマックユーザーは圧倒的に不利である．マックにインストールするためにはインターネットからダウンロードしなければならないソフトがあり，しかもダウンロードしても本書のページを画面上で見る程度の機能しかない．

本書は恐らく魚類研究者が考える以上に影響力をもつことであろう．魚類の学名は魚類分類学者や魚類生態学者だけに必要なものではない．生物多様性や環境問題がマスコミをにぎわせていることから推測できるであろうが，魚類の学名や名称は生物多様性に関わる人たち，水産関係者，政府職員，そして政治家にとってさえときには重要な問題となるのである．ところが，学名は分類学的行為によってしばしば変更される．また，学名に関する網羅的なデータベースは存在しない．Eschmeyerが完成させたこのデータベースは動物界（恐らく生物全体を通じても）で初めての網羅的な学名の情報源である．もちろん，彼自身も述べているように完璧な物ではなく，誤りもある．しかし，魚類の属と種の名称については本書を参照すればよいという安心感を与えてくれる．なお，1998年4月現在の時点で明らかになった誤りは上述のインターネット上のURLに示されている．

このデータベース作成は必ずしも容易に開始されたわけではない．Eschmeyerによると，National Science Foundationに研究助成金の申請を行った際に審査員から厳しい意見が出され，しかも何人かの魚類学者は大きすぎる計画だから達成不可能と述べたという事である．しかし，そのときNSFにいたJim Tylerが多くの魚類学者に助言を懇請し，審査員にも計画の支持を依頼し

たことによって状況が変わり，属名のデータベース作成プロジェクトに研究費が配分された．長期に渡るこのような基礎的プロジェクトを許容するアメリカ魚類学界の奥深さを感じさせる挿話である．

Eschmeyerは既に次のプロジェクトを考えている．種名のデータベースには実は相対的に弱い部分もある（東南アジアの淡水魚類など）ので，改訂を行いたいというのである．新しいチーム編成で次のプロジェクトを始めようという情熱には頭が下がるが，と同時にデータベースに「はまって」しまった恐ろしさも感じるのである．

（松浦啓一　Keiichi Matsuura：〒169–0073 東京都新宿区百人町3–23–1　国立科学博物館動物研究部　e-mail: matsuura@kahaku.go.jp）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
45(2): 121

□ 魚類学一般

European freshwater fishes. —Maurice Kottelat. 1997. Biologia, Bratislava, Sec. Zool., Vol. 52, Supplement 5. 271 pp. ISSN 0005 3088, ISBN 80-85665-87-5, 45.00 CHF(Swiss Frans). 旧ソビエト連邦を除くヨーロッパ全体の淡水魚類目録，385種を科，属，種ごとにコード化し分類している．冒頭には淡水魚の種に対していくつかの定義を行うとともに，生化学や遺伝的手法によるデータを分類学的に解釈する際に生じる問題点等にも言及している．(KH)

日本動物大百科　第6巻　魚類. —日高敏隆監修，中坊徹次・望月賢二編．1998．平凡社，東京．206 pp. ISBN 4-582-54556-4. 3600円（本体）．日本に出現する魚類を目・科・属・種などさまざまな分類レベルで解説．豊富な写真と興味深いトピックスで読み物としても面白い．著者は本学会会員を中心とする68名もの専門家からなる．(MM)

□ 分類学・進化学

The Diversity of Living Organisms. —R. S. K. Barnes (ed.). 1998. Blackwell Science, Oxford, UK. xiv+345 pp. ISBN 0-63-04917-0. 6700円．本書の原案は同一編者によって1984年に出版された "A Synoptic Classification of Living Organisms"にあるが，内容は大幅に改訂されている．現生生物全体を門のレベルまで概説した本で，各門はオリジナルで作成したと思われるきわめてレベルの高い線画により，一目でその外部形態と体制がわかるようになっている．分類体系は少なくとも綱のレベルまで示されている．生物の多様性を知るうえで絶好の書．(MM)

□ 魚類生態学

サメ—軟骨魚類の不思議な生態. —矢野和成．1998．東海大学出版会，東京．viii+223 pp. ISBN 4-486-01425-1. 2500円（本体）．本学会会員でもある矢野和成氏によるサメ（エイも多少含む）の本．内容のほとんどが伝聞でないところにまず驚かされる．彼のような驚異的な乗船歴と海外渡航歴をもたないものにはまず書けないオリジナリティーの高い本．読み物としても非常に面白い．(MM)

□ その他

ナマズはどこで卵を産むのか—川魚たちの自然誌. —片野修．1998．創樹社，東京．225 pp. ISBN4-7943-0535-4. 1900円．淡水魚の生態や行動を研究している著者が20年ほどにわたる活動を通して見つめてきた川魚たちの生活と，人との関わりについての考えをスケッチブック風にまとめたもの．第1章「ナマズとアユモドキをめぐる話」から第8章「淡水魚と人間」までの構成で，その主な内容を大別すると，個体に焦点を当てた行動と生態，およびその利用と保護の問題となる．文章表現はやさしく，一気に読み進むと，川魚たちの生活史や個体間関係を通した生き方と共に，かれらに強い愛着を寄せ，人と川魚との共存のあり方を模索する一人の生態学者の生きざまが伝わってくる．(AG)